

社会の中における多数決の数学的なモデルにガラム理論がある。本研究では浮動型と賛成固定型のいるガラムモデルで、母数 ( $n=64,128,256,512,1024$ ) に対して偶数グループ分け ( $r=4,8,16,32$  (人)) を行い、繰り返しグループ多数決の収束先を数値的に調べた。それから賛成派の自動勝利となる固定型比率 ( $a_{cr}$ ) を得た。グループ内の意見同数の場合、確率  $k$  で賛成となるとするルールを導入し、 $k$  の関数として  $a_{cr}$  を調べた。 $k$  は社会全体の風潮を表すと考えられる。 $r=4,8$  で、 $k$  の値が増えるほど  $a_{cr}$  の値が小さくなり (図 1、2)、 $r=16,32$  の場合は  $k$  の値を変化させても  $a_{cr}$  の値は一定であった (図 3)。

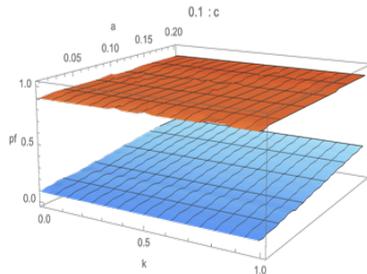


図 1

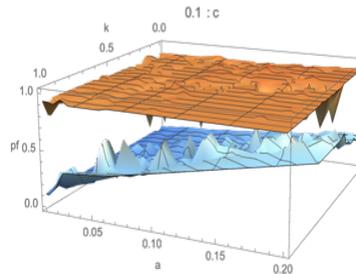


図 2

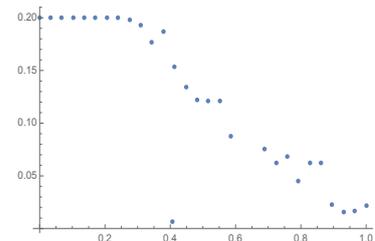


図 3